

大雨や強風は、わたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上～
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/秒以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/秒以上44m/秒未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/秒以上54m/秒未満
		猛烈な	54m/秒以上

集中豪雨

集中豪雨は、積乱雲の影響により線状降水帯が形成されて、数時間にわたってほぼ同じ場所で非常に激しい雨が降ります。発生の予測は困難を伴いますが、河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 市や防災関係機関の情報を確認しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、
注意して
おきましょう！

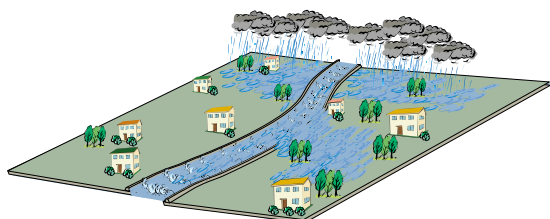


川の氾濫

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

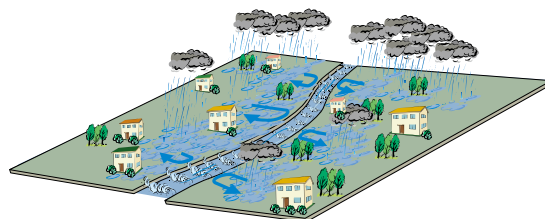
外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すので、最大の注意が必要。



内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



大雨などにより地中にしみ込んだ水分などが起因となり、大きな災害になる可能性があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、周辺の変化に注意して災害に対応しましょう。

土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、普段と異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と声をかけ合い安全な場所へ避難するとともに、市役所などの関係機関に連絡してください。日ごろから危険箇所や避難所・避難経路を確認しておくことも重要です。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



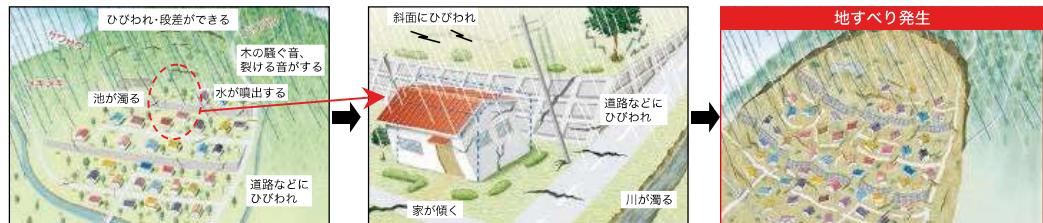
土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や田畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。普段と違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

警戒区域と特別警戒区域とは

【警戒区域と特別警戒区域の設定について】

基礎調査により **土砂災害警戒区域(通称:イエローゾーン)**
土砂災害特別警戒区域(通称:レッドゾーン)を設定します。

警戒区域 (イエローゾーン)

土砂災害のおそれがある区域

- ◎地形条件で設定する
- ・過去に発生した災害の実態から定められた地形の条件

- 急傾斜地の崩壊
 - ・斜面下部より高さの2倍の距離の範囲(最大で50m)
 - ・斜面上部より水平距離が10mの範囲
- 土石流
 - ・地盤勾配2度以上の範囲
- 地すべり
 - ・地すべりする恐れのある土地の長さと同じ範囲(最大で250m)

特別警戒区域 (レッドゾーン)

建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域

建築物の構造規制

新築、増改築を行う場合、建築確認申請の対象となります。

土砂等による衝撃に対して
安全な構造が求められます。

特定の開発行為に対する制限

- ・宅地分譲
- ・老人ホーム、病院などの要配慮者利用施設の建築を行うための開発行為には、許可が必要となります。

建築物の移転等の勧告

土砂災害が発生した場合、その居住者、利用者等の生命に著しい危害が生じるおそれのある建築物については、建築物の所有者や管理者が、**移転等の勧告**を受けることがあります。

【土砂災害警戒情報について】

土砂災害警戒情報は、土砂災害による被害の防止・被害の軽減のため、北海道と気象庁が共同で発表する防災情報です。
美幌市ほか北海道内の土砂災害情報については、北海道土砂災害警戒情報システム (<http://www.njwa.jp/hokkaido-sabou/>)にて確認できます。

